

2. ブラジル政治情勢（3月の出来事）

[内政]

（1）新型コロナウイルス感染症関連

（ア）12日、財政緊急事態に関する憲法修正案（PEC Emergencial）が連邦下院において可決され、同修正案が成立した。これにより、連邦政府は、歳出上限に抵触することなく、最大 440 億レアルの予算を新型コロナ対策緊急給付金向けに執行することが可能となった。18日、ボルソナロ大統領は、第二弾となる新型コロナ対策緊急給付金の支給を可能にする旨の暫定措置令を発出した（26日付官報に記載）。これに伴い、低所得層の非正規雇用者及びボルサ・ファミリア受給者を対象とし、1家族あたり月額標準 250 レアルの給付金が4回にわたって支給される。

（イ）18日、マジョール・オリンピオ上院議員（PSL）が新型コロナウイルス感染症により死去した。新型コロナ感染症が原因で死亡した連邦議員は3名となった（全て上院議員）。

（ウ）24日、ボルソナロ大統領は、大統領官邸における三権の長、連邦政府閣僚及び各知事による会合の後、新型コロナ対策委員会を設立する旨発表した。同大統領によれば、同委員会は新型コロナ禍対策の手段を決定するため、連邦議会と連携し、パシェコ上院議長（DEM）が委員長を務める。25日、ボルソナロ大統領は、新型コロナ対策委員会の設立に関する大統領令に署名した。31日、ボルソナロ大統領、上下両院議長及びケイローガ保健大臣により、第1回新型コロナ対策委員会が開催された。

（2）ルーラ元大統領に対する有罪判決の無効化決定

（ア）8日、ファキン連邦最高裁判所（STF）判事は、クリチバ市に所在する第13連邦裁判所（第1審）がルーラ元大統領に下したラヴァ・ジャット関連の公判にかかる2件の有罪判決を無効化する旨言い渡した。同判事は、右2件に加えて計4件の汚職事件にかかる裁判管轄権は第13連邦裁にないものと判断し、今後の公判はブラジリア連邦裁判所においてやり直しとなる旨決定した由。

（イ）12日、連邦検察庁が上記決定につき STF に上訴。

（ウ）25日、STF は本件にかかる大法廷審理 4 月 14 日に設定した。

（3）ボルソナロ政権の支持率

16日、ダッタフォーリャ社による世論調査の結果が発表されたところ、政権支持率は30%（前回調査：31%）を記録し、不支持率は44%（前回調査：40%）に上昇した。

（４）閣僚の交代

（ア）23 日、パズエーロ保健大臣が解任され、医師のマルセロ・ケイローガ氏（伯心臓病学会会長）が新保健大臣に就任した。

（イ）29 日、ボルソナロー大統領は6 ポストにかかる閣僚交代を公表したところ、以下のとおり。

大統領府・文官長：ルイス・エドゥアルド・ラモス大統領府政府調整庁長官

法務・治安大臣：アンデルソン・トーレス連邦区公安局長

国防大臣：ヴァルテル・ブラガ・ネット大統領府文官長

外務大臣：カルロス・フランサ大統領特別補佐官

大統領府・政府調整庁長官：フラヴィア・アフード下院議員（PL：自由党）

連邦総弁護庁長官：アンドレ・メンドンサ法務・治安大臣

[外交]

（１）アラウージョ外務大臣（当時）による対外政策の総括

2 日、アラウージョ外相（当時）は、各種貿易協定交渉等、この2 年間の伯外務省の対外経済政策を総括し、引き続き対外経済開放を推進していく姿勢を示すとともに、メルコスールの柔軟化の必要性等に言及した。

（２）アラウージョ外務大臣（当時）のイスラエル訪問

7～9 日、アラウージョ外相（当時）を団長とする伯代表団がイスラエルを訪問した。アラウージョ外相（当時）は、同国との政治および科学技術に関する対話促進を目的とし、7 日にアシュケナジー・イスラエル外相との会談を行い、8 日にネタニヤフ首相への表敬訪問等を行った。

（３）伯産アルミニウムの対米輸出に係る補助金に関する調査の終了

10 日、伯外務省及び経済省は、伯産アルミニウムの対米輸出に係る補助金に関する調査を終了した旨の合同プレスリリースを発出した。同プレスリリースによれば、伯政府が監視してきた米国への伯産アルミニウム合金板の輸出におけるアンチダンピング、補助金及び補償措置につき、国産品に追加料金を課すことなく補助金及び相殺措置の調査が終了した。また、同プレスリリースには、伯政府が同製品に対するアンチダンピング調査の監視を継続する旨記載。

（４）伯米間の環境協力協定に向けた会合の実施

9 日、サレス環境大臣は、森林伐採及び気候変動対策の分野における米国との協力協定に関する交渉を前進させるため、米国政府の代表団との会議に参加し

た。

（５）アセベド・パラグアイ外務大臣の訪伯

16 日、アラウージョ外相（当時）は、ブラジリアを訪問中のアセベド・パラグアイ外相と会談を行った。同パラグアイ外相は、アラウージョ外相（当時）に対し、新型コロナウイルス感染症ワクチンの無償供与を要請した。

（６）ボルソナーロ大統領によるメルコスール首脳会合への出席

26 日、ボルソナーロ大統領は、メルコスール発足 30 周年を祝うオンライン首脳会談に参加した。同大統領は、メルコスールの枠組みは加盟国に良い結果をもたらし、ダイナミズムの回復のため、本枠組みの近代化を擁護すると述べた。

3. トピックス

（１）AI に関するウェビナーの実施

2 日、在ブラジル大使館はブラジル科学技術革新省と共催で「AI に関するウェビナー」を実施した。山田大使及びジョゼ・グスターボ科学技術革新省起業イノベーション副次官が出席し挨拶した他、「ウィズコロナ・ポストコロナにおける AI 技術の可能性と AI 活用を通じた産業・社会への影響」をテーマに、日本側からは松尾豊東京大学大学院工学系研究科人工物工学研究センター教授が、ブラジル側からはノルベルト・アルベス・フェレイラ教授がそれぞれ講演を行った。

山田大使の挨拶及びウェビナー動画は、以下に掲載している。

https://www.br.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00334.html

（２）令和元年度草の根・人間の安全保障無償資金協力の報告式（在サンパウロ総）

9 日、桑名在サンパウロ総領事はオンラインにて、アラサツーバ市に所在する「障害者擁護団体ヒッチーニャ・プラッテス」が主催する令和元年度草の根・人間の安全保障無償資金協力の報告式に出席した。式典には、同団体のバルボーザ理事長の他、当地の日系社会から、本田ヒデト・アラサツーバ日伯文化協会会長、白石一資・同副会長が出席した。

- ・ 案件名：アラサツーバ市精神病院マイクロバス整備計画

- ・ 供与限度額：88,491 米ドル（伯貨：315,030 レアル）

- ・ 本計画では、障害者擁護団体ヒッチーニャ・プラッテスに対し、入院患者の外部診療やセラピー等への参加機会の増加を目的として、車椅子昇降付きマイクロバス 1 台（車椅子 6 台収容）を供与した。



写真(左)は左から
 ヴァニウダ・マリア・バルボーザ・ヒッチーニャ・プラッテス理事長
 オスカル・ファリア・ラモス・ヒッチーニャ・プラッテス法律顧問
 白石一資・アラサツーパー日伯文化協会副会長
 本田ヒデト・アラサツーパー日伯文化協会会長

(3) 伯日議連及びブラジル日本商工会議所とのブラジル税制の課題に係る意見交換会

17日、山田大使は、伯日議連のルイス・ニシモリ議員、ヴィトール・リッピ議員、キン・カタギリ議員及びブラジル日本商工会議所とオンラインで、日本企業が抱えるブラジル税制の課題について意見交換を行った。議員からは「ブラジル・コスト」削減のための税制改革の重要性や議会での税制改革の進捗状況等について発言があり、大変有意義な意見交換の機会となった。



(4) ブラジル日本研究国際学会への出席

17～19日、ブラジリア連邦大学の主催により、第13回ブラジル日本研究国際学会及び第26回全伯日本語・日本文学・日本文化大学教師学会がオンラインで開催され、開会式では、山田大使が挨拶を行った。

また、招待パネル（標題「変化する国際環境の中の日伯関係」）に当館高橋

専門調査員がパネリストとして参加し、近年の日伯関係について報告した上、子安昭子教授（上智大学）及び舩方周一郎特任講師（東京外国語大学）とともに今後の日伯関係について討論した。



学会の動画は、以下に公開している。

https://www.br.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00351.html

（５）日本の新型コロナウイルス対策広報動画発信（在リオデジャネイロ総領事館）

29 日、在リオデジャネイロ総領事館はドラゴンボールシリーズの孫悟空の声優を務める人気ユーチューバー、ウェンデル・ベゼッハ氏協力の下、日本へのバーチャル旅行を通じて、日本における新型コロナウイルス感染対策、コロナ禍で活用される科学技術、日本文化を紹介する動画を発信した。



動画リンク：<https://youtu.be/0hjoREOA00s>